



### ◆◆◆◆ 便利すぎる世の中で ◆◆◆◆

今の時代は、50年前、つまり私が子どもだった頃と比べたら、便利になり過ぎたと感じます。

私は、子育ての講演会のために、いろいろな所へでかけて行きますが、行く先々で「この時代の家庭と子育てに必要なこと」についてお話ししています。そして、何がこの時代の子育てに最も必要かと言えば、それは、何よりもまず良い親子関係を築くことだとお話しします。

今の時代は、よほど注意していないと、豊かな親子関係を築くことができないのです。一体なぜでしょうか。私は、この時代の物質的な豊かさと過剰な便利さが、その大きな原因の一つだと考えています。

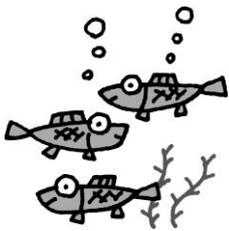
ところで、私は脚本家の倉本聰さんの大ファンで、「北の国から」というテレビドラマのシリーズを何度くり返して見たか分かりません。あのドラマを通して、子どもの幸せのために何がいちばん大切なのかを大いに考えさせられました。ドラマの中では、貧しさと究極の不便さが親子の心を一つにしていくのです。親はもちろん、子どもたちも自分ができるお手伝いをして、家庭生活を支える役割を果たさなければなりません。でも、そうやって親子が協力しながら生活することで、時間と感動を共有することになるのです。それを通して、親を尊敬する気持ちや信頼関係や心の絆が結ばれて行くのです。

そう考えると、今の時代は豊かになりすぎ、便利になりすぎています。子どもたちのお手伝いも、あまり必要なくなってしまうました。ご飯を炊くのも、お風呂を湧かすのもボタン一つです。親がよほど意図的に子どもたちに役割を与えなければ、彼らはただ自分たちの遊びに夢中になるだけです。しかし、それでは豊かな親子関係は築けません。

豊かな親子関係がない中での子育ては、難しいことだらけです。親が子どもに良いアドバイスを与えようとしても、子どもの心になかなか入って行かないからです。だから、良い子育てを願う親たちは、敢えてこの時代の豊かさや便利さに、ある程度逆行する覚悟が必要かもしれません。



### ◆◆◆◆ 子どもの興味を育てる ◆◆◆◆



小学4年生の孝君が、水の入ったビニール袋を手にして玄関に飛び込んできました。

「お母さん、お母さん、メダカの子も捕まえたよ!?ねー、飼ってもいいでしょ?!」

お母さんはビニール袋を持ち上げて光にかざして見てみました。でも、メダカはどこにも見当たりません。「えっ? メダカなんていないじゃない!」そう言うと、「いるよ、

よく見てよ! 生まれたばかりの赤ちゃんだから小さいんだよ!」そこで、もう一度目

をこらして見てみると、体調わずか5ミリくらいの、糸くずのような稚魚が2・3匹泳

いでいました。「こんな小さなメダカ、どうやって育てるのかしら? うちの母子家庭でお父さんに聞くことも出来ないし…」とつい否定的な言葉が頭に浮かびましたが、「そうだ、ネットでメダカの飼い方、出てるかもしれないね!一緒に調べてみようか?」と孝君に言いました。

調べてみると、餌のこと、水質のこと、水温のこと、濾過の方法等、ありとあらゆる情報が写真付きで分かりやすく出ていました。それからというもの、孝君は夢中になってメダカの世話をしました。

やがてメダカは成魚になって卵を産み、増えたメダカは学校の教室でも飼うことになりました。そして孝君は、クラスの中で魚博士の異名を取るほどになりました。

それだけではありません。いままで何事にも自信が持てず、劣等感に苦しんでいたのに、勉強にも興味が出て、振るわなかった成績も次第に伸びていったのです。もしかしたら孝君は将来「サカナ君」になるかも知れません。